



シルクフォーラム in 結城 2022

(第1部 トークショー)

シルクのまちづくり市区町村協議会

情報誌の名称の『知・る・く』は、「シルク」のことを「知る」、「シルク」の街を「歩く」という意味が込められており、3つのフレーズを融合させた造語です。

「知」の「口」部分は絹糸をイメージ。同時にシルクの無限大(∞)の可能性も表現しています。

「く」の下部には靴をあしらひ、街を歩くイメージと協議会の前進の意味を込めました。

No.13>>>Contents

●産地ブランドマークのご紹介

- (1) 結城ブランドロゴ（茨城県結城市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

●会員自治体の情報（シルクに関わるイベントや取り組みなど）

- (1) 茨城県結城市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- (2) 山形県鶴岡市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- (3) 新潟県十日町市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- (4) 京都府京丹後市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

《参考資料》

- (1) シルクのまちづくり市区町村協議会・構成員一覧・・・・・・・・・・ 14
- (2) シルクのまちづくり市区町村協議会の設立趣意書・・・・・・・・・・ 16

産地ブランドマークのご紹介



結城ブランド認定マーク（茨城県結城市）

結城紬の代表的な緋(かすり)模様である「亀甲」がモチーフになっています。

結城ブランドについて

「結城ブランド」は、商品ブランド化にとどまらず、結城の歴史、伝統文化、自然景観、産業など、様々な地域資源を、ふるさとの資産として再認識し、磨きをかけてブランド化することで、まちの価値や暮らしの質を高めて、その魅力を市内外にPR・発信し、知名度の向上と地域の活性化を図ることを目的としています。

結城ブランド戦略3つの基本体系

「結城ブランド戦略」では、『1.結城トラッド』『2.結城スタイル』『3.結城メイド』の3つの基本体系に基づき、それぞれのブランド定着に向けた取り組みにより、“総合的な結城のイメージ”の向上と発信を推進します。

(1) 結城トラッド 歴史が映えるまち

本場結城紬や見世蔵、城下町を築いた結城家など、これまで連綿と受け継がれてきた結城の歴史・伝統文化を、次代に活かす「歴史が映えるまち」のブランド化を推進します。

(2) 結城スタイル 暮らしが活きるまち

みんなが健康で心豊かにいきいきと、安全・安心に生活できる、愛着や誇りを持って住み続けるまち、美しい風景づくりに向けた、「暮らしが活きるまち」のブランド化を推進します。

(3) 結城メイド ものを創り育てるまち

結城の美味しくて安全・安心な農産物や加工食品のほか、伝統工芸から近代産業まで、高度な技術や匠の技やものづくりに関する「ものを創り育てるまち」のブランド化を推進します。

会員自治体の情報(シルクに関わるイベントや取り組みなど)

(1) シルクフォーラム in 結城 2022 の開催

(2) 第 14 回きもの day 結城の開催

(1) シルクフォーラム in 結城 2022 の開催

日にち:令和4年11月11日(金)

場 所:結城市民文化センターアクロス小ホール

〈はじめに〉

結城市を中心に茨城県と栃木県にまたがる鬼怒川沿いおよそ 20km の地域において、日本最古の織物の技法を守り伝えられてきた、日本を代表する高級絹織物として知られている結城紬は、真綿から糸へ、つむぎ、結び、染め、織る、約 40 の製作工程を経て、1 反の紬に仕上がります。

結城紬の製作工程のうち、「糸つむぎ」「拵くり」「地機織り」の3工程が、昭和31年に国重要無形文化財に指定され、平成22年にはユネスコ無形文化遺産に登録されました。

〈シルクフォーラムの開催〉

シルクに関連する産業や歴史・文化を持つ市区町村で構成するシルクのまちづくり市町村協議会令和4年度総会を本市において開催するにあたり、同時開催イベントとして「シルクフォーラム in 結城 2022」と題し、トークショーとファッションショー、結城紬製作工程の実演の内容で開催しました。

また、同日、結城紬きものファッションショー(茨城県本場結城紬振興事業実行委員会主催)も開催されました。

イベントには、シルクのまちづくり市町村協議会会員自治体の皆様をはじめ、着物愛好家の一般観覧者を合わせ330名の来場により盛況に開催されました。

〈トークショー〉

茨城県常総市出身の俳優 羽田美智子さんをお迎えして結城紬の若手後継者ととも「結城紬の魅力とこれからの結城紬」について語り合いました。

羽田さんは、着物の製作について「多くの職人が携わる着物作りは、写す人や録音する人など皆で作るドラマと一緒に」と表現しました。また、結城紬については「100年着られる結城紬は SDGs の理念にかなっている」と語りました。

〈製作工程実演〉

真綿かけ、糸つむぎ、拵くり、地機織りの4工程を実演し、日本最古の伝統技術を披露しました。

〈ファッションショー〉

金色の刺しゅう入りの豪華なデザインや鮮やかな黄色の無地まで、色とりどりの華やかな結城紬の着物に身を包み、プロモデルを含む 17 名が登場し、来場者を魅了しました。

「イベントの様子」

実演



トークショー



ファッションショー



(2) 第14回きものday 結城の開催

日時:令和4年11月12日(土)・13日(日) 午前10時から午後4時

場所:結城市北部市街地

《概要》

きものday 結城は思い思いの着物を着て結城の街なかを歩いて楽しむイベントです。

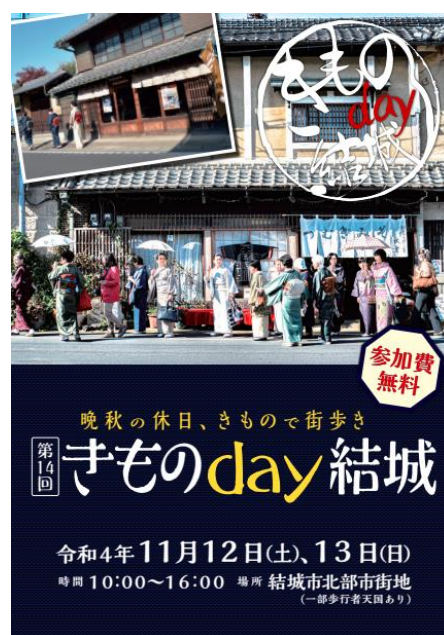
結城の北部市街地は中世の城下町の町割りが今に引き継がれ、寺社や見世蔵など歴史的な建物が多く現存する風情ある情景が特徴です。

古き良き結城の街を着物で歩くこのイベントは毎年全国各地から約6,000人が来場されます。

《内容》

- ・本場結城紬反物が当たる豪華抽選会
- ・本場結城紬着物レンタル
- ・着物着付け支援
- ・街なか散策ガイド
- ・人力車乗車会
- ・桐製品やまゆ工芸品など雄伝統工芸品の展示販売などの企画展
- ・街なかスタンプラリー/クイズラリー
- ・手作りオーナメントなどの各種ワークショップ
- ・音イベント(和太鼓、篠笛による演奏)
- ・桐箱朝市

など



《参加者の声》

賑わいがあって楽しいです。子供も楽しんでます。

人力車が楽しかった!

街なか散策しながら買い物も楽しめました

かわいいお店が多くて楽しかった!

皆様のおもてなしが親切で楽しめました

着物を着て出かける機会ができてうれしい。



《桐箱朝市の様子》

《振り返り》

新型コロナウイルス感染症も落ち着きが見られ、通常開催に近い形で開催することができました。

1日目は天候にも恵まれ、絶好のお出かけ日和に多くのおお客様がご来場されました。

2日目はイベント終盤に雨が降りましたが、着物ですごしやすい気温で楽しめたことと思います。

《イベントの様子》



《街なか散策》

今回から一部歩行者天国となり参加者はおしゃべりをしながら有意義に街歩きを楽しんだ様子でした。

《抽選会》

本場結城紬の反物のほか、桐箆笥や紬のショールなど、豪華賞品が当たる抽選会には多くのお客様が参加し、大変盛況に開催されました。



《人力車乗車会》

街なかの移動にも便利な人力車は、3年ぶりの復活となり、人気のあまり終始待ちの列ができていました。古風な街並みを人力車が走る様子は結城にとってもマッチしていました。

《音イベント》



《街なかお休み処》



山形県鶴岡市 シルクのまち鶴岡の確立に向けて 令和4年度シルク関連事業について

山形県鶴岡市をはじめとする庄内地域は、地域一丸からの支援のもと旧庄内藩士が刀を鋤に持ち替えて原野を開墾した松ヶ岡を発祥とする国内最北端の絹産地であり、今なお養蚕から絹織物の製品化まで一貫した工程が残る国内唯一の地です。

昨年、令和4(2022)年は、徳川四天王の筆頭 酒井忠次を祖とする旧庄内藩主酒井家の入部400年の節目の年でした。この節目の年に、本市では庄内の歴史と文化を活かした様々なプログラムを実施しており、その活動の一環として、旧庄内藩士の開墾の歴史から、現在まで続く鶴岡のシルクを学び、考えるイベントを行っております。

1. 酒井家庄内入部400年記念 鶴岡シルク特別企画展

酒井家庄内入部400年を記念し、鶴岡シルク特別企画展「ファンファーレ 扇の舞～NUNOとwe+によるテキスタイルインスタレーション」を、令和4年10月21日(金)から11月6日(日)まで鶴岡アートフォーラムにて開催しました。



展示のメインとなるギャラリー空間を全て鶴岡で制作されたテキスタイルが埋め尽くしました(鶴岡アートフォーラム ギャラリー1F)

日本を代表するテキスタイルデザイナーのNUNO 須藤玲子氏と、林登志也氏・鶴岡市出身の安藤北斗氏によるコンテンポラリースタジオ we+ (ウィープラス) による本展覧会では、お祝いを象徴する「すえひろがり」な扇が空間を埋め尽くしました。

作品の基調となる「青」は須藤氏とNUNOのデザイナーが、鶴岡・庄内の歴史・文化を伝える「^{ちどう}致道博物館」所蔵の酒井家三代目忠勝公の肖像に描かれた着衣の藍色から着想しました。本展覧会のために制作したテキスタイルは全て酒井家ゆかりの名品や庄内の食文化をモチーフにデザインされております。また、扇本来の「あおぐ」という行為が生み出す風や空気の動きに注目し、庄内平野を背景に建物と内と外を

《 開催概要 》

展覧会名称	ファンファーレ 扇の舞 ～ NUNOとwe+によるテキスタイルインスタレーション
会期	: 2022年10月21日(金) ～ 11月6日(日) *月曜日休館
会場	: 鶴岡アートフォーラム(鶴岡市馬場町13-3) *入場無料
主催	: 鶴岡市
後援	: 酒井家庄内入部400年記念事業実行委員会 鶴岡「サムライゆかりのシルク」推進協議会
企画協力	: 鶴岡シルク株式会社
協力	: 株式会社庄交コーポレーション HAKUTEN 荒川技研工業株式会社

つなぐインスタレーション（展示空間を含めその「場」で体験できる芸術作品）として、we+による展示デザインが会場入口のエントランスから建物の外まで展開されました。約 15 日の短い会期となりましたが、1,400 人の方に来場いただきました。

NUNO のデザイナーが本展覧会のためにデザインしたテキスタイル(一部)



忍轡(しのびぐつわ)

酒井家の重宝の一つ「しのびぐつわ」は酒井忠次氏の手柄を讃え、織田信長氏より贈られたものだそうです。鉄製でひょうたん型をしており、中には片喰の家紋が入っています。「くつわ」をモチーフとしたデザインは、リング部分がゆらゆらと動きます。



だだちゃ豆

「今日の豆は、どこのだだちゃの豆か？」という殿様の問いかけから名前がついたと言われ、鶴岡市白山地区で品質改良をかさねた在来品種の「だだちゃ豆」。鮮度を保つため朝3時から 7 時までの間に収穫し、鮮度にこだわる宝石のような豆。デザインは宝物を見せびらかすように、両手いっぱいのだだちゃ豆です。



ファンファーレ 扇の舞
ポスター、フライヤーデザイン

2. シルクサミット in 鶴岡 2022



鶴岡織物工業協同組合の清野力理事長による主催挨拶



Spiber 株式会社 中村浩之氏より、シルクにも関連する新たな素材として構造タンパク質についてお話いただきました

カイコやシルク等の各分野で活躍する人々の意見交換、情報交流、技術交流を図る機会として、全国のシルク産地を巡り毎年開催されている「シルクサミット」を令和 4 年 12 月 10 日（土）、12 月 11 日（日）に鶴岡市先端研究産業支援センターレクチャーホールで開催しました。本市では初開催となります。

初日の 10 日は、日本遺産として認定されている「サムライゆかりのシルク 日本近代化の原風景に出会うまち鶴岡へ」のストーリーにちなみ、テーマを「サムライゆかりのシルク～ここから先を紡ぎ出す～」とし、松ヶ岡開墾の歴史から続く、絹産業の近代史や、未来へ続く新たな取組みについて 6 名の講師によりお話いただきました。

講演は二部構成となっており、第一部「サムライゆかりのシルク」では、松ヶ岡開墾場副理事長の山田陽介氏よりサムライ（旧庄内藩士）が開墾した松ヶ岡の歴史、鶴岡シルク株式会社代表取締役の大和匡輔氏より現在まで続く鶴岡のシルクの取組みについてそれぞれお話いただきました。歴史があってこそ続く鶴岡のシルクを、未来に向けてどのようにここから先を紡いでいくのか、改めて考えるきっかけとなる

聴きごたえのある内容でした。続く第二部「ここから先を紡ぎ出す」では、活動事例報告として、福栄養蚕振興会養蚕指導員の菅原久継氏より地域活性化のための養蚕振興活動、Morus 株式会社代表取締役 CEO の佐藤亮氏から食分野での新たなカイコの可能性、農研機構主任研究員の神戸裕介氏からは人体との

親和性の高いシルクの医療分野への応用、Spiber 株式会社 Biotechnology 部門の中村浩之氏からはシルクにも関連する構造タンパク質について Spiber 株式会社の立ち上げからの話を交えながら、それぞれの研究活動やその取組についてお話いただきました。また、会場では鶴岡織物工業協同組合、Spiber 株式会社、農研機構、九州大学の4者が展示ブースで製品や研究活動について紹介し、休憩時間中には大変にぎわっていました。

翌日の11日午前には産地見学会として、本市の観光地を代表するクラゲ展示数世界一位の「加茂水族館」と、開墾の歴史を現在まで紡いでいる「史跡松ヶ岡開墾場」を訪問し、前日の講演と合わせて、さらに深く松ヶ岡の歴史を知ることができました。

全国各地から来鶴したシルク・カイコの事業者、研究者の皆様、鶴岡について深く知っていただく良い機会になりました。シルクサミットには約100名（産地見学会には約30名）に参加いただきました。



松ヶ岡開墾場1番蚕室内の松ヶ岡開墾記念館では講演された山田陽介氏から開墾の歴史についてご説明いただきました

《開催概要》
 日時：2022年12月10日(土) 13:30-17:00(サミット)
 12月11日(日) 8:30-12:20(産地見学会)
 会場：先端研究産業支援センターレクチャーホール
 (鶴岡市覚岸寺字水上246-2)
 主催：国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
 一般社団法人大日本蚕糸会
 シルクサミット2022in鶴岡実行委員会

《講演プログラム》※敬称略
 ◆第一部：サムライゆかりのシルク
 講演「士族の開墾 ～松ヶ岡、絹の歴史のはじまり～」
 松ヶ岡開墾場 副理事長 山田 陽介
 講演「過去を学び未来に繋ぐ
 ～kibisoのブランディングによるシルクの可能性～」
 鶴岡シルク株式会社 代表取締役 大和 匡輔

◆第二部：ここから先を紡ぎ出す <活動事例報告>
 事例報告「養蚕業の再興に向けて
 ～福栄養蚕振興会の試み～」
 福栄養蚕振興会 養蚕指導員 菅原 久継
 事例報告「新たな食の選択肢として、カイコが再び世界を変える」
 Morus 株式会社 代表取締役 CEO 佐藤 亮
 事例報告「非繊維形態に成形加工した
 シルクの医療応用を目指した研究」
 農業・食品産業技術総合研究機構 主任研究員 神戸 裕介
 事例報告「構造タンパク質という
 新たなマテリアルプラットフォームの実現に向けて」
 Spiber 株式会社 Biotechnology 部門 中村 浩之

3. シルクノチカラ2022



シルクノチカラ2022ポスター
 イラストレーションは地元高校生によるもの

「シルクサミット in 鶴岡」との連日開催で、令和4年12月11日(日)午後、荘銀タクト鶴岡(鶴岡市文化会館)で、地元の高校生たちが取り組むシルクを活かした様々な活動や研究の発表を通じて、貴重な地域資源であるシルクの魅力や可能性について触れるイベント「シルクノチカラ2022」を開催しました。

令和元年からはじまり三度目の開催となる今回は、鶴岡市出身の歌舞伎役者 中村橋吾氏を講師に迎えての記念講演や、鶴岡中央高校、鶴岡南高校の生徒による課題研究発表、鶴岡中央高校シルクガールズによるシルクガールズコレクション2022が行われました。

平成29年の日本遺産認定以後、市内には学生の総合学習のテーマとしてシルクを取り上げる高校が増えていて、高校生によるシルクの研究活動が定着されつつあります。シルクガールズコレク

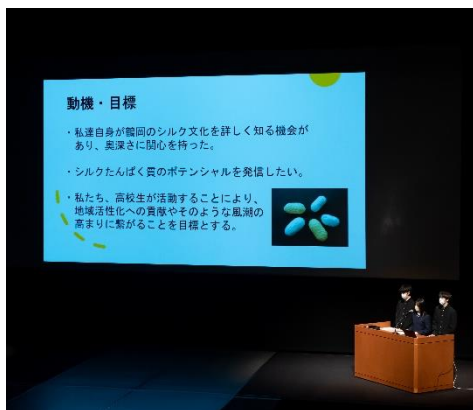
シヨンは平成 22 年から取組みを行っており、学生だけでなく市内事業者の協力も得ながら、今回で 12 回目の開催となりました。シルクノチカラには約 400 名に来場いただきました。



歌舞伎の衣装にはシルクが使われていると話す中村橋吾氏



12 回目の開催となった鶴岡中央高校によるシルクガールズコレクション



鶴岡南高校によるシルクをテーマとした課題研究発表

《 開催概要 》

日程 : 2022 年 12 月 11 日 (日) 13:00-15:45
 会場 : 荘銀タクト鶴岡 大ホール (鶴岡市馬場町 11-61)
 主催 : 鶴岡「サムライゆかりのシルク」推進協議会

《 プログラム 》

- ◆記念講演
 講師 : 歌舞伎役者 中村 橋吾氏 (演題 文化・芸術でつむぐ、素敵な未来)
- ◆課題研究発表
 - ・鶴岡中央高校…テーマ: 松ヶ岡発!! つなげるプロジェクト (家族連れを対象にした鶴岡シルクの草木染め体験イベントレポート)
 - ・鶴岡南高校 …テーマ: 知る! 玄人~人肌恋しいあなたにシルクを~ (シルクタンパク質「セリシン」を活用した入浴剤の制作と研究)
- ◆シルクガールズコレクション 2022
 - ・鶴岡中央高校…テーマ: Sparkle~輝き続けるシルク~ (シルクを活用したドレス等の制作と発表)
 ゲストモデル: 渋谷 真子氏 (鶴岡市在住車いす YouTuber)

お知らせ

国指定史跡松ヶ岡開墾場では大蚕室 5 棟が現存しており、令和 4 年 4 月に 4 番蚕室は、愛称を「シルクミライ館」とし、本市の絹産業の歴史と文化に多言語で触れ、楽しみながら学べる絹織物体験施設としてオープンしました。例年 4 月下旬が桜の見頃です。ぜひ、鶴岡・松ヶ岡にお越しください。



松ヶ岡開墾場 1 番蚕室 松ヶ岡開墾記念館



松ヶ岡開墾場は桜の名所にもなっています ぜひ遊びに来てください^^



シルクミライ館の中では目で見て、触れて、聴いて、鶴岡のシルク産業を感じることができます

～職人探訪～十日町きものGOTTAKU2022 を開催

新潟県十日町市で、きもの工場見学イベント「～職人探訪～十日町きものGOTTAKU2022」を開催しましたので、イベントの様子をご紹介します。

～職人探訪～十日町きものGOTTAKUとは？

新潟県十日町地域は、縄文時代を起源とする永い年月の中で、織物の技術と文化を育み、革新を続け、きもの一大産地を形成してきました。近年では、芸術家と地域住民が協働して豊かな自然を舞台に展開される現代アートの祭典「大地の芸術祭」の里として、広く知られています。

そこで、当地域の伝統と技術の結晶である「きものづくり」を中心に据え、交流人口の拡大を目的としたイベント「～職人探訪～ 十日町きもの GOTTAKU」を2018年から開催しています。

十日町市は、糸燃り、織り、染め、メンテナンスまで、「きもの」に関わる総合産地であり「～職人探訪～ 十日町きもの GOTTAKU」の開催により、きもの魅力、伝統を引き継ぐ職人の技、きものに関わる人の思いを多くの皆さんから見て感じていただきたいと考えております。



GOTTAKUとは？

十日町ではなじみ深い言葉である「ごったく」。「ごったく」は「人をもてなすお祭り」や「賑やかな騒ぎ」といったニュアンスの言葉です。きものまち十日町の3日限りの職人を巻き込んだごったく。

静かな町にあふれるきものへの熱さを一緒に感じていただきたいという思いから名づけられました。

2022年は3年ぶりに開催

2018年に第1回を開催し、多くの皆様から好評をいただいた当イベントですが、2019年に第2回を開催後、新型コロナウイルス感染症の影響により、2年連続中止を余儀なくされました。

2022年は感染症対策を十分にしながら3年ぶりに第3回目のイベントを開催することができました。

6月2日（木）から4日（土）の3日間で、十日町市内のきもの関連工場8社に新潟県内外から延べ273人の参加者が見学を訪れ、職人の技の数々を堪能しました。

【開催概要】

開催期日 令和4年6月2日(木)～4日(土) 午前の部 10:00～11:30、午後の部 14:00～15:30

開催場所 十日町市内きもの関連工場8社

主催 十日町きものGOTTAKU実行委員会



見学を楽しむ参加者の様子

参加者の声（一部抜粋）

きもの反物一反ができるまで職人の技術が本当に詰まっていることが実際に拝見できてよかった。

十日町のきもの歴史から会社の特徴まで詳しく丁寧に教えていただいてわかりやすかったし、とても興味深かったです。

職人の声（一部抜粋）

他では見られないものが見られたと多くの方から言っていた。

こういった見学者との交流の機会は、職人にとっていい刺激になっている。

～職人探訪～十日町きものGOTTAKU2023を開催予定です

2023年は6月1日(木)から3日(土)、8日から10日(土)の6日間、2週にわたっての開催を予定しています。今年の6月は新潟県十日町市にぜひお越しください。

【十日町きものGOTTAKUホームページ URL】 <https://www.kimono-gottaku.jp/>

見学お申込みやイベント情報など、随時更新していきます。



「京丹後市新シルク産業創造館」における無菌周年養蚕等研究の事業化について

<はじめに>

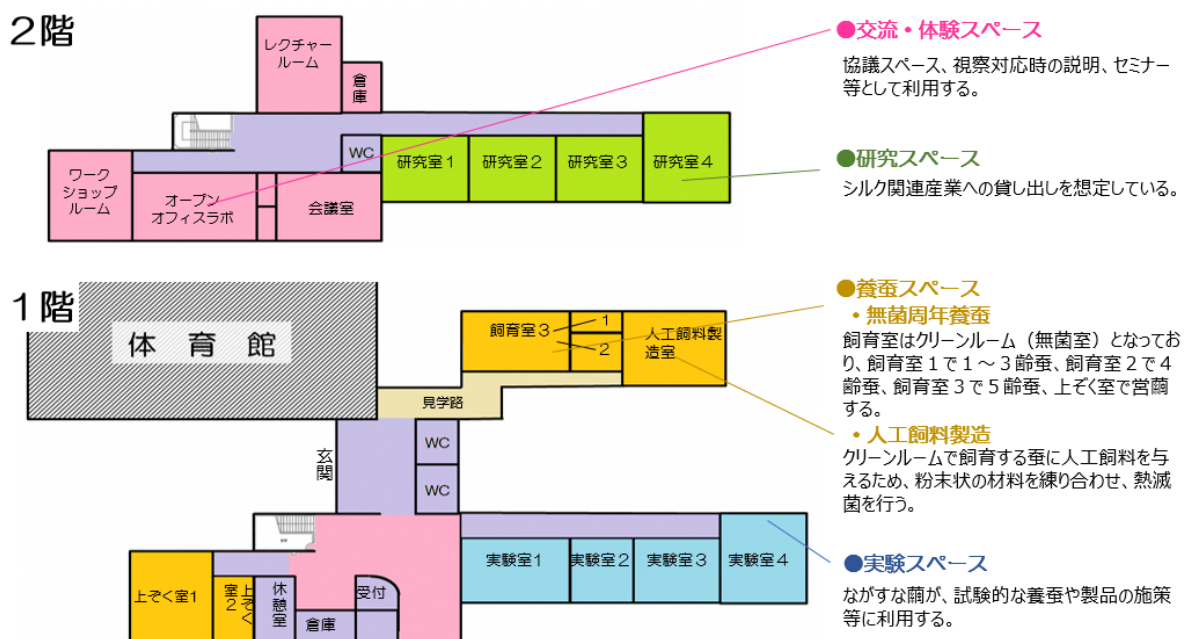
京都府の最北端に位置する京丹後市は、海、山、里の自然に恵まれた人口5万2千人のまちです。丹後の地域的特徴である湿度の高い気候が、絹織物の製造に適していることから、隣接する与謝野町と共に現在でも国内和装白生地約7割を生産する「丹後ちりめん」の産地となっています。丹後ちりめんは1720年に始まり300年以上の歴史を持つ当地域の伝統産業となっております。かつては、年間約1,000万反の生産量を誇っていましたが、現在ではその規模も大幅に縮小し、最盛期に比べ2%以下の生産量となっている状況です。

そこで減少の一途を辿っている絹織物産業において、川上分野にあたる「養蚕業」に着目すると、原料となる生糸の大半を海外からの供給に依存している状況にあることから、国際情勢により供給や価格が不安定であること、また繭生産に係る収益力が弱いことから事業承継や新規参入も見込まれず、高齢化や後継者難などによる労働力減少の課題があります。

当市は、かつて日本の産業を牽引した絹織物産業を、国内最大の産地であるこの地域で維持し、未来へ継承していくために、国産蚕の安定的な確保に加え、これまでの織物だけでなく、繭、シルク素材の機能性に着目した新たな産業の創出、さらにシルクを活用する関連産業の集積を目指し「新シルク産業創造館」を拠点とした事業を実施しております。

<廃校を活用した新シルク産業創造館の整備>

平成27年から28年度に、繭の安定的な量産、高機能なシルクの研究・開発、シルク関連産業の集積拠点を目指し、廃校となった小学校を「新シルク産業創造館」として整備しました。施設の特徴は、周年で安定的な大量養蚕が可能となる無菌環境を構築できるクリーンルームと、人工飼料製造室を備えている点です。



また、高機能シルクを研究する大学やシルクを活用する企業の集積を図るため研究室を整備するとともに、入居者が実験を行うために研究設備や機材を設置した実験室に加え、研究セミナー、視察対応、ワークショップ等で利用できる会議室なども備えております。

<京都工芸繊維大学との共同研究>

平成 29 年度からは京都工芸繊維大学と連携し、新シルク産業創造館において無菌周年養蚕技術に関する基礎研究と遺伝子組み換え蚕の試験飼育を実施しました。人工飼料による無菌周年養蚕の実験を繰り返し、徐々に飼育頭数を増やしていき、令和 2 年度には施設設計上最大の 1 サイクル 20 万頭飼育を成功させ、無菌周年養蚕における大量飼育の手法を確立しました。加えて、遺伝子組み換え蚕の養蚕についても、当施設での大量飼育の手法が応用可能であることを確認しました。

これにより、新シルク産業創造館での繭生産から丹後ちりめんの製造まで、すべての国産化が可能となる兆しが見えてきました。しかし、大量養蚕の手法は確立したものの、生糸を生産するまでのコストが高く、事業化に向けてはコストカット及び繭の高付加価値化による高値で取引できる出口戦略が課題として残りました。

【新シルク産業創造館での養蚕の様子】



人工飼料の製造作業



人工飼料への掃き立て作業



クリーンルームでの餌替え作業

<民間事業者とのビジネスモデル構築に向けた取組>

令和 3 年度には、京都工芸繊維大学と連携して進めてきた基礎研究の成果を活用した新たなビジネスモデルの構築を担う民間事業者をプロポーザルにより選定し、新シルク産業創造館を拠点とした国内産シルクの付加価値と民間事業者のノウハウを融合した産業の創出を目指した取組を進めています。

現在は、市内でシルク製品の販売、研究開発を行ってきた「ながすな繭株式会社」が受託事業者となり、無菌周年養蚕の手法・技術移転を行いながら養蚕規模の拡大、品質の安定化、コストカットなどの事業化に向けた開発を続けています。今後も、国産繭の安定確保に向けた設備導入、絹・シルク素材を活用したヘルスケア、メディカル産業資材での利用、サナギ等の食品用途での利用など開発を進めていき、将来的な自走化を目指します。

シルクのまちづくり市区町村協議会・構成団体等一覧

(令和4年11月11日現在)

■会員（33団体）

1	山形県鶴岡市	12	新潟県十日町市	23	滋賀県長浜市
2	山形県長井市	13	新潟県小千谷市	24	京都府京都市
3	山形県白鷹町	14	新潟県南魚沼市	25	京都府宮津市
4	福島県川俣町	15	石川県金沢市	26	京都府京丹後市
5	茨城県結城市	16	石川県小松市	27	京都府与謝野町
6	栃木県足利市	17	福井県勝山市	28	愛媛県西予市
7	栃木県小山市	18	山梨県富士吉田市	29	鹿児島県鹿児島市
8	群馬県富岡市	19	山梨県西桂町	30	鹿児島県奄美市
9	群馬県前橋市	20	長野県岡谷市	31	鹿児島県龍郷町
10	東京都新宿区	21	長野県駒ヶ根市	32	沖縄県久米島町
11	東京都武蔵村山市	22	長野県安曇野市	33	兵庫県養父市

◇役員

会 長 茨城県結城市（市長 小林 栄）
副会長 滋賀県長浜市、新潟県十日町市、福島県川俣町
監 事 愛媛県西予市、長野県安曇野市

■特別会員[オブザーバー]

農林水産省、経済産業省関係部署担当課長

■顧問（13名）

◎ファッションジャーナリスト

清水 早苗氏 ジャーナリスト／クリエイティブ・ディレクター

◎クリエーションコーディネーター

松田 正夫氏 繊維・未来塾 塾長／（株）大阪繊維リソースセンター特任顧問

岡田 茂樹氏 元東京ファッションデザイナー協会議長／元鶴岡 kibiso プロデューサー

◎テキスタイルデザイナー

須藤 玲子氏 株式会社布取締役

酒井 美和子氏 （有）GBカンパニー代表取締役

福井 健二氏 K.FUKUI PERSONAL OFFICE&EA 主宰

永森 達昌氏 オフィス・ナガモリ代表

◎和装

早坂 伊織氏 着物伝承家

笹島 寿美氏 着装コーディネーター・帯文化研究家

◎研究機関

玉田 靖氏 信州大学 繊維学部 教授

長島 孝行氏 東京農業大学 農学部デザイン農学科 教授（農学博士）

藤井 浩司氏 早稲田大学 政治経済学術院政治経済学部／政治学研究科 教授

阿部 栄子氏 大妻女子大学 家政学部被服学科 学科長／教授（学術博士）

■協賛者等（26団体）

◎蚕糸団体

（一財）大日本蚕糸会、中央蚕糸協会、碓氷製糸株式会社、蚕糸・絹業提携グループ
全国連絡協議会

◎産地織物組合

鶴岡織物工業協同組合、福島県絹人織織物構造改善工業組合、小千谷織物同業協同組合、山梨県絹人織織物工業組合、滋賀県絹人織織物工業組合、丹後織物工業組合、本場大島紬織物協同組合、本場奄美大島紬協同組合

◎絹業団体

全国染色協同組合連合会、全国染織連合会、京友禅協同組合連合会、京都工芸染匠協同組合、日本織物中央卸商業組合連合会、(一社)全日本きもの振興会、(公社)全日本きものコンサルタント協会、(一財)シルクセンター国際貿易観光会館(シルク博物館)、東京ネクタイ協同組合、日本繊維輸入組合、新宿区染色協議会、西予市野村シルク博物館

◎その他団体

GS 世代研究会

シルクのまちづくり市区町村協議会の設立趣旨

古来よりわが国に伝わる尊い宝、絹。

絹を用いる産業、すなわちシルク産業は、地域経済の中で重要な役割を果たし、地域の生活や風土に根付いた産業として我々の地域とともに発展してきました。同時に、悠久の歴史の中でこれら産業が培った技術により生み出される製品は、地域文化を育むと同時に、わが国文化の根幹に大きく関わり、地域の価値や日本の品格を伝えるものとして、産業・文化の両面で貢献しています。

ところが、社会・生活環境が急激に変化する中で、現在では資源の枯渇化や人材の不足、市場の縮小による需要減少など、地域のシルク産業の発展に支障が生じているとともに、近代化・平準化の中でわが国固有の誇りある文化の風化が危惧されているところです。

一般的に、シルク製品は、養蚕、製糸、織物、染色など多段階の工程の中で、それぞれに長年にわたって極められた究極の技術が、完璧なまでに調和され完成されます。またそのものづくりは、技術者同士の厚い信頼と連携の上に成り立ち、日本が誇るものづくりの原点ともなっています。さらに、世界においてもシルクは、かつてシルクロードという長大な交易ルートを創造し、産業を活性化するとともに東西文化の交流を育んできています。すなわちシルクは、単なる繊維素材ではなく、歴史的にも経済社会の様々な断面を相互に発展に導く共通のきずなであり、今後においてもシルクを通じた「連携」「国際展開」「産業活性化」「文化交流」などによって、様々な分野の未来に多くの示唆と可能性を与えてくれるものであると確信します。

こうしたシルクの持つ意味を改めて認識し、シルクに関連する産業、またはシルクに関係する歴史・文化を持つ市区町村が連携し、「シルク産業の活性化」や「シルク文化を活用した魅力ある地域づくり」など、シルクの意味を活用して新たな展望を切り開くため、「シルクのまちづくり市区町村協議会」を設立します。

平成22年1月26日



茨城県結城市のマスコットキャラクター『まゆげった』

長くて凛々しい眉毛。(下駄の鼻緒に似ている)
体は絹糸の原料である繭からできているので白い。
もちろん結城紬を着ていて、桐下駄を履いている。

編集/発行 シルクのまちづくり市区町村協議会

発行年月 令和5年3月

【この情報誌に関するお問い合わせ先】

令和4年度シルクのまちづくり市区町村協議会事務局

(茨城県結城市経済環境部商工観光課)

〒307-8501 茨城県結城市中央町二丁目3番地

電話:0296-34-0421 FAX:0296-33-6629

メール:shokokanko@city.yuki.lg.jp

ホームページ:<https://silktown.jimdo.com/>